



MDP

MATCHDAY PROGRAM

4.3 (水)

Sagan Tosu



19:00 KICK OFF

vs ヴィッセル神戸

©2023 VISSSEL KOBE

3年目の変化。  
進むべき道を示す  
リーダーシップの胎動

加入3年目、原田亘の雰囲気が変わった。謙虚に、堅実に。黙々とチームのためにプレーする姿、その印象が強い原田だったが今季は始動以来、ピッチ上で周囲に熱く、強く、言葉を発信している。その背景にあるのは自覚だ。「リーダーシップというところは求められていると思っていますし、自分でも意識しています。でも、まだまだ足りないと思います。発信することに正解、不正解はあると思いますが、そこは気にせずにチームを引っ張っていくことを意識してやりたい」。読谷村キャンプの練習試合でも若い選手たちに厳しい声を掛けることもあった。「予想しないことが起こったときに各々がどうしたいのかというところが、まだまだ自分発信でできない選手が多いと思います。できる人たちが常に声を出していかないとけない」。サガン鳥栖に加入して3年目を迎え、ピッチ上でも年齢的には中堅の立場になった。引っ張ってもらうのではなく、自分が引っ張っていく立場となったことで意識が変わり、行動が変わった。これまでは自分自身のプレーに目を向けることが多かったが、自然とチームとしてのプレーに言及することも増えた。原田にいま、リーダーとしての風格が漂い始めている。

ただ、もちろん、選手としての成長も強く意識している。リーダーとしての姿により説得力をもたらすのは選手としてのパフォーマンスの高さだ。今季、選手としてテーマに掲げているのは前への力強さだ。「守備ではボールを奪うところ。攻撃では相手の背後に飛び出していくアクションを意識していきたい」。持ち味である攻撃参加にさらに磨きをかけ、守備でもチームに勢いを与えるような強度を生み出していく。SBの位置からチームを前へと推し進める原動力となるのが理想の姿だ。「昨季は1ゴール4アシストだったので今季は2ゴール5アシストを目標にしています」。昨季からゴール、アシストを1つずつ増やすという謙虚な目標設定に原田らしさも残すが、リーダーシップを見せるその背中にはたくましくなっている。

DF 42

原田 亘

Wataru HARADA



For the next stage

BPLUST

未来にプラスを  
ビープラストスペシャルマッチ